

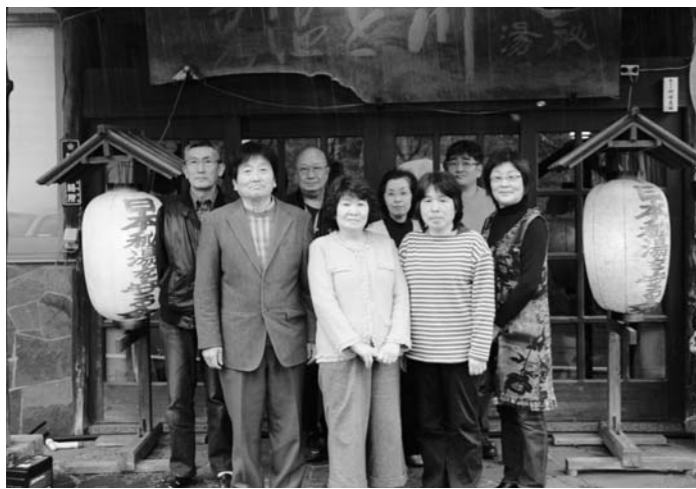


山田 文孝さん・利子さん(井手)

取材者：浪江町役場 長沼・嶋原
取材日：4月11日

心まで温まる川上温泉に皆さんお越しく下さい

浪江町では、奥さまの利子さんとご長男夫婦、三つ子のお孫さんとの7人でにぎやかな毎日を過ごしていた山田さん。現在は、福島市の借上げ住宅で奥さまとの2人暮らしです。今、落ち着いてきた中で、お世話になった方々への恩返しと自分のできるボランティア活動をしていきたいと考えていらっっしゃいます。



▲川上温泉の社長(前列左)、おかみさん(前列左から2番目)と一緒に。(後列一番左が文孝さん、前列右から2番目が利子さん)

■文孝さんのお話
震災で自宅は入れないほどの被害を受けて、家族全員が納屋で一晩過ごしました。翌日から避難生活となりましたが、6カ所目が土湯温泉の旅館、川上温泉で4月17日から4カ月間、夫婦で身を寄せました。川上温泉には、浪江の方が30数人一緒に知り合いもいました。当初は、食事が終わればみんな部屋に戻

る感じでしたが、そのうち全員が何かしらの手伝いをするようになりました。社長とおかみさんを始め、従業員の方々は4カ月間ずっと変わらない温かいもてなしをしてくれて、本当に心からありがたく、その人柄には驚かされました。一時帰宅の引率のための役場の臨時職員募集があり、社長が募集のパンフを黒板に張りながら勧めてくれたのがきっかけで、7月から週2、3回仕事をしました。朝6時に出勤するのに合わせて、梅干し入りのおにぎりやおかずを作って社長自ら持たせてくれて本当に助かりました。

8月20日に福島市の借上げ住宅に引っ越し、川上温泉を出ましたが、旅館が忙しいときにはアルバイトとしてお膳の片付けや掃除、布団の片づけなどしています。今までは派遣会社の人材を使っていたようですが、2食付で高くつくはずの私たちに声を掛けてくれる気遣いがあります。

2人でお風呂に入りに行くのも楽しみで、帰りにはお孫と一緒に住めないのは寂し

いですが、浪江に戻りたいと思います。今落ち着いてきた中で考えるのは、これまでお世話になった川上温泉の皆さんに恩返しをしたいということと仮設の見守り隊や草刈りなど自分のできるボランティアをしたいということ。川上温泉は心温かい気持ちのいい人ばかりで、お風呂はのんびりできて最高に安らぐ旅館です。たくさんの方に来ていただいでその良さを味わってほしいと思うのでぜひお越しください。

■利子さんのお話

岳温泉でのボランティア活動で知り合った二本松市の高野津希子さんの紹介で着物のリフォームや知り合いから頼まれて内職をしています。

また、楽しみなのは高野さんからの誘いもあり、安達運動場仮設住宅でのちぎり絵や押し花などの作り方を教えてもらいに出かけて行くことです。

仮設には、何人か顔見知りの方もいて、住んでいなくても「また来てね。」と声をかけてくれるのがうれしいですね。

浪江のこころ通信

・第11号・

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信」第11号への感想をお寄せください。

【連絡先】〒976-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243-22-4261

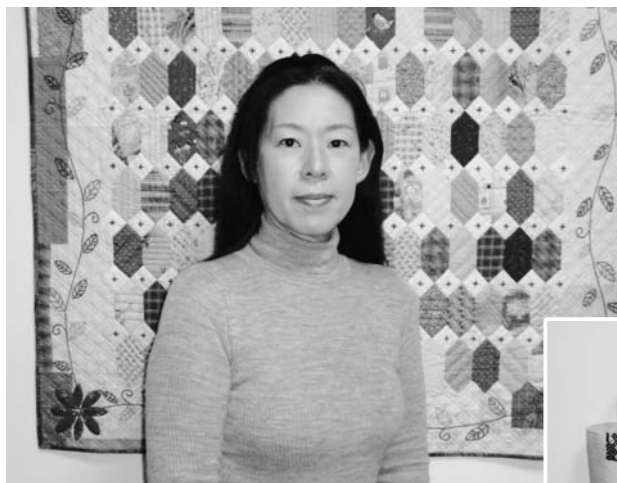




小泉 泰代さん(川添)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤
取材日：4月19日

浪江の復興は、小さな取り組みの積み重ねから



▲趣味のパッチワークキルトをバックに

▶避難先の青森県むつ市で習い創った「こぎん刺し小物」



震災後は、いわき市に1カ月、青森県むつ市に3カ月避難した後、8月から仙台市太白区に在住。仙台市在住の知人が少ないため、少し心細い日々を過ごされているそうです。

震災直後は、近くに住んでいる知人に助けられ車に同乗して避難。そして宿泊までさせてくださいました。また、避難先のむつ市では、近くの工房に大変お世話になり、くだものの摘み取りや海の幸を楽しみに、よく連れ出してもらったものでした。当時はどう動いていいかわかり

ませんでしたが、だからこそ今、改めて感謝しているところです。現在は、仙台市太白区に住んでいます。地下鉄の駅にも近く便利。美術館に行ったり、唯一の仙台在住の知人と会って話をしたり、娘が住む二本松市や実家の家族が避難しているいわき市に出かけたりしていると、あつというまに日々が過ぎていきます。私にとっては、近くに住んでいた親友と離れたことが今でもショックです。子育ての楽しさや苦勞をともにしてきましたが、ようやく子どもも親元を巣立ったので、ちょうど一緒に旅行に行ったりさまざまな楽しみ計画を考えていたところだったからです。こんなはずではなかった、という思いでいっぱいです。浪江を離れたからこそ思うのは、自分は浪江しか知らないんだな、帰りたい気持ちでいっぱいだな、ということ。きれいな海や山、自然がいっぱいあり、いい町です。昨年は、二本松市を会場に復活し開催した十日市に行ってみました。浪江で開催していたときよりは小規模

でしたが、懐かしく楽しめました。このように小さくてもいいから裸参りや大堀相馬焼のせと市もぜひ実施してほしいなと思います。祭りを絶やさないで若い人たちに頑張ってもらいたいです。私の娘は二本松で仕事をしています。夫からは、姉妹みたいな親子だな、なんて言われたりもします。彼女は、震災を機に一人暮らしをし、日々初めてのことに挑戦し、頑張って仕事をしています。そんな様子を見ると「復興を担う大事な一人だな」と感じるとともに、たくましくそして心強く感じ「頑張れ！」と応援したくなります。だからこそ、私もグチを言わず頑張ろうかな、と思えるのです(笑)。



NPO法人 コーヒータイム 理事長 橋本由利子さん(川添)

取材者：浪江町役場 長沼・嶋原
取材日：4月11日

コーヒータイムがみんなの希望に

心に障がいを持った方々の環境を整えて、自立の手助けをしていた就労継続支援施設コーヒータイムは、昨年10月に二本松で再オープンしました。再開によって生き生きとした表情になったという利用者の皆さん。新たに二本松の利用者さんが加わったことでここで根を張っていきたくと話してくださいました。

震災当日に利用者さんをすべて自宅へ送り届けることができませんでした。その後、スタッフを含めみんなそれぞれ避難生活を送っていました。5月に利用者さんとその家族、スタッフ、支援者が二本松で集まり今後の打ち合わせをしました。話し合いで、「再開しよう。しなくちゃだめだよ。」と後押しされ、さて、どこで再開するかとなり、利用者さんから「役場がある二本松だろう。」という声が上がりがびつくりしました。私自身は、浪江に近い所だと思っていましたし、実はそのとき、誰も二本松に住んでい



▲スタッフの皆さんと一緒に (橋本さん：後列真ん中)

なかったのです。再開することを決め、商工会や役場に再開場所を探し協力してもらいました。二本松駅前の市民交流センターにある杉乃家さんの隣が空いているという連絡がきて、7月にまたみんなで集まったとき見学に行きました。キッチンを見た利用者さんがすごくいい顔をしていて、家賃は大変ですが、ここでやろうとみんな決めました。大堀にあるコーヒータイムから、手作りのテーブルやイス、大堀相馬焼のコーヒーカープを運ぶなど準備をして、10月17日に町長、商工会会長も出席のもと開所式を行いました。スタッフ3人は全員単身赴任ですが、自分も動かないとおかしくなりそうだったし、みんなにとってどこかで始まることは希望や目標になると思えました。浪江では、ビザ生地、うどん、やきそばも作っていました。このキッチンが手狭なので福島市や近隣の作業所からお菓子などを仕入れて販売しています。咲織コースターやハワイアンストラップは手作りしての販売です。また、大堀相馬焼の展示や二本松出身の菅野伝授さんの絵の展示、絵葉書も販売しています。

お店は、スタッフ3人、非常勤1人、利用者さん9人でやっています。利用者さんは全員が毎日ではなく体調と気持ちに折り合いをつけながら働いています。不安はそれぞれ抱えていると思いますが、表情は生き生きとしています。県外やいわき市などに避難して、コーヒータイムに来られない方も連絡を取って、いつでも遊びに来てくださいと話しています。「ここでやっていると待っているよ。」と発信しています。また、利用者さんには、震災を機にひとつだけひとり暮らしも勧めています。再開して一番良かったことは、みんなの希望になったことです。これまでは、お店を開くことで一杯でしたが、今は、次は何が必要かななどと考えることができるようになりました。これからは、浪江と二本松の情報発信の場にもしていきたいですね。夢や希望を語れるようになったので、夢は大きく、みんなが描いたイラストの「ゆめのお城」のような事務所やのんびり作業できるスペースのあるみんなの居場所も作りたと思っています。